



総合開発計画において、圏央道が高規格幹線道路に追加され、ほぼ、現在の計画となった。

現在の3環状の整備状況については、以下のとおりである(図-1)。

中央環状線は、都心から約8kmの3環状の一番内側に位置する延長約47kmの環状道路であり、2015年3月に大井JCT~大橋JCTが開通したことで、3環状では初の全線開通となった。

外環道は、中央環状線と圏央道の間に位置する都心から約15kmの延長約85kmの環状道路であり、現在までに、大泉JCT~三郷南ICまでの約34kmが開通し、整備率は約4割となっている。

圏央道は、都心から約40~60kmの3環状の一番外側に位置する延長300kmの環状道路で、2015年度には、6月に神崎IC~大栗JCT間が開通し、

10月には桶川北本IC~白岡菖蒲IC間が開通し、整備率は約8割となった。

### 3. 3環状整備による効果 <ストック効果>

#### (1) 都心の渋滞を避けて目的地へ

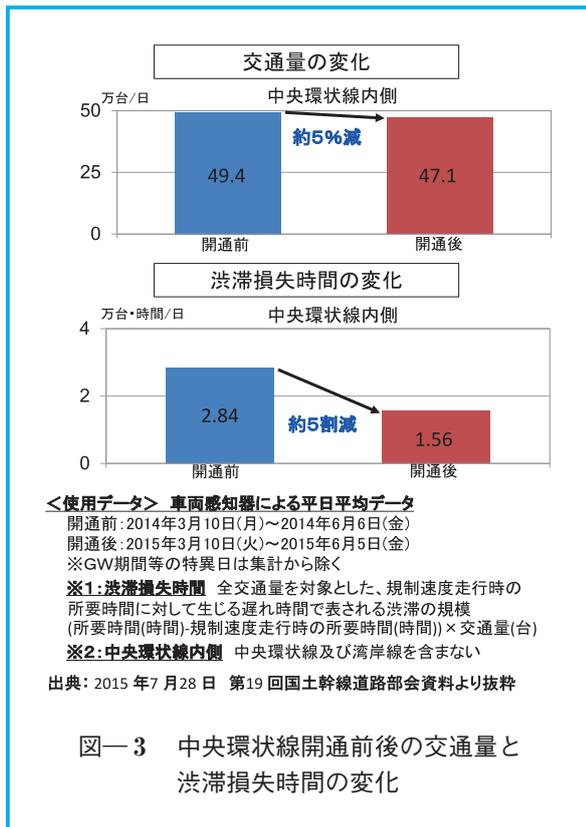
2015年10月に圏央道の桶川北本IC~白岡菖蒲ICが開通し、東名高速、中央道、関越道、東北道の4本の放射道路が接続された。

東名高速⇄東北道間を乗り継ぐ交通に着目すると、都心経由から圏央道経由への交通転換が図られ、圏央道内側の交通が9割から3割に減少した(図-2)。

残る圏央道内側を通過する交通は、2016年4月



図-2 東名高速⇄東北道間の経路選択



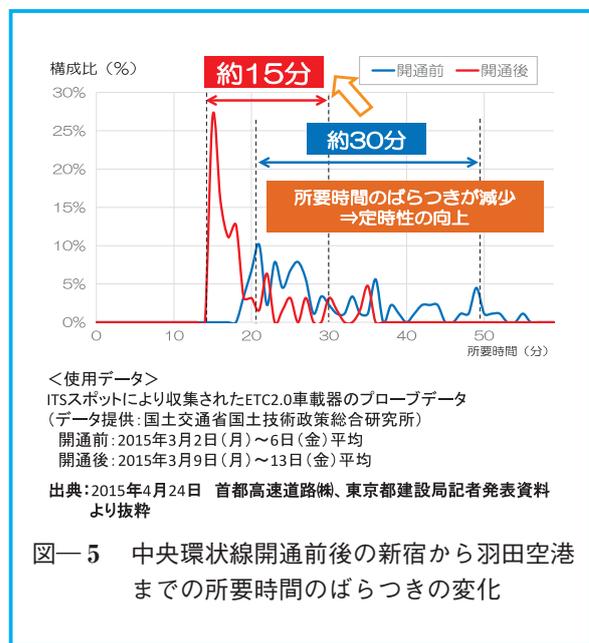
からの新たな高速料金の適用で転換されることが期待される。

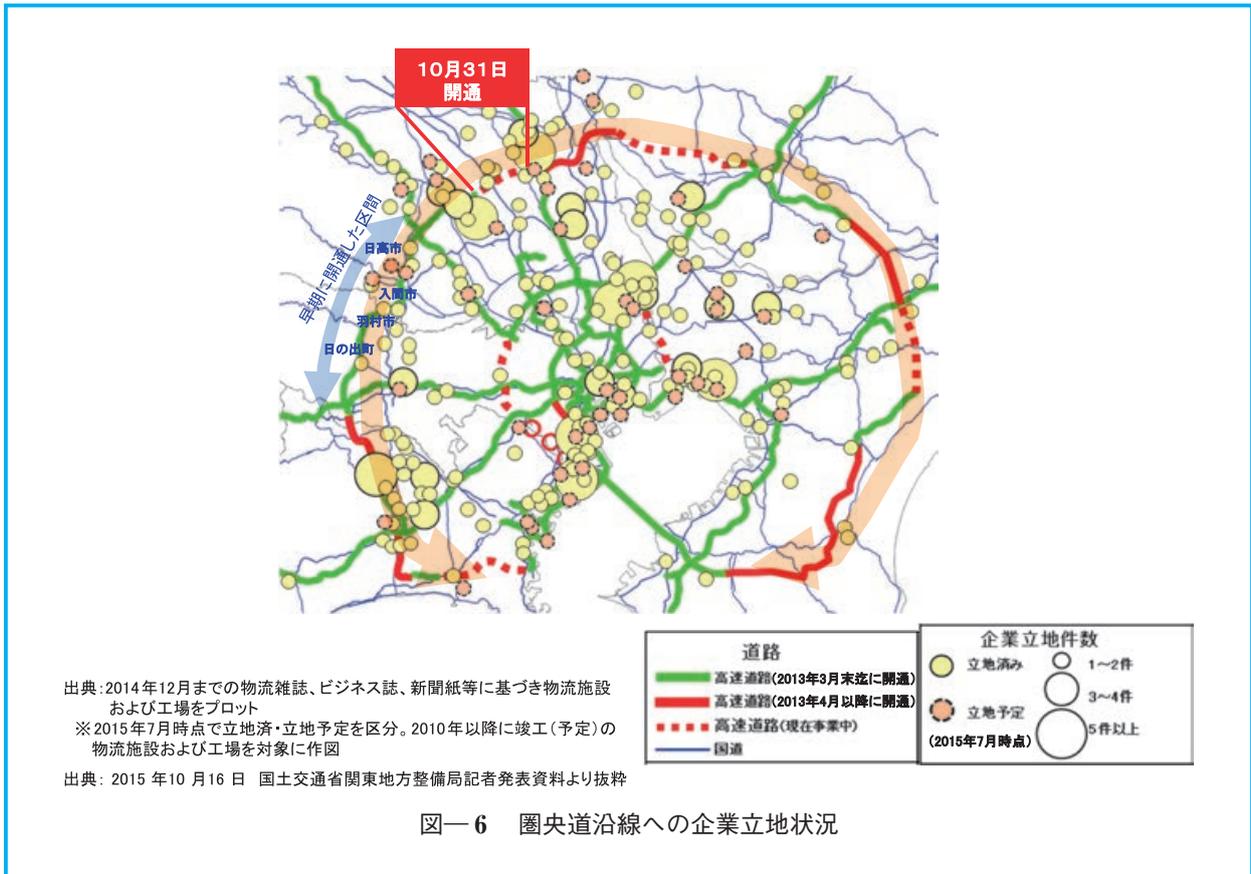
また、2015年3月に大井JCT~大橋JCTが開通したことにより、中央環状線は全線開通した。

中央環状線内側の通行量が約5%減少することにより、中央環状線内側の渋滞損失時間が約5割減少し、都心の渋滞緩和が図られた(図—3)。

新宿から羽田空港までの混雑時(11時台)の所要時間は、約40分から約19分になり、開通前より約21分短縮された(図—4)。

加えて、所要時間のばらつきが、約30分から約15分に半減しており、利用者にとっては、目的地への到着が遅れないように、渋滞などによる遅れを見込んで出発時間を早めるなどしていた無駄な時間が軽減された(図—5)。





図一六 圏央道沿線への企業立地状況

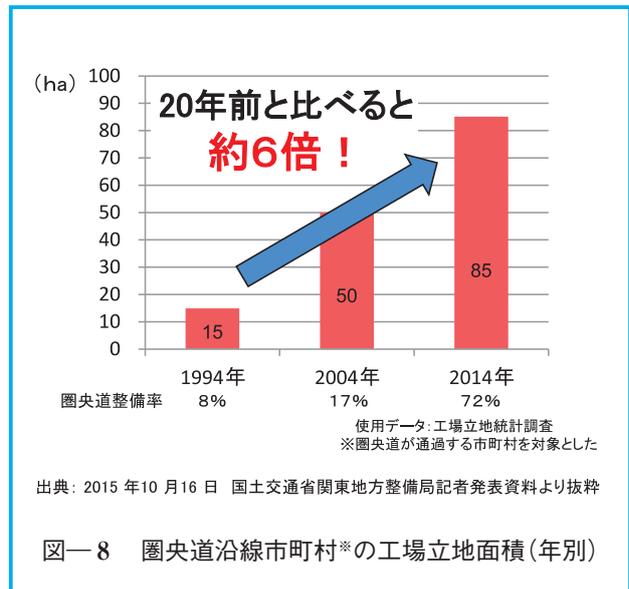
(2) 圏央道沿線に進む企業立地

圏央道が開通することにより、都心を経由せずに、広域的な移動が可能となることから、輸送時間の短縮や定時性の向上が期待される。このことから、圏央道沿線には、新たな物流拠点や工場等の立地が進んでいる(図一六)。

なお、早期に開通した区間(関越道~中央道)の沿線4市町では、開通前に比べ製造品出荷額が埼玉県と東京都の全体平均の約1.5倍に増加(図一七)しているほか、圏央道沿線市町村の工場立地面積が20年前と比較すると約6倍に増加などの効果が発現している(図一八)。



図一七 製造品出荷額の上昇



図一八 圏央道沿線市町村\*の工場立地面積(年別)

(3) 広域的な観光交流の実現

3環状の整備により、これまで遠かった観光地が身近になっている。海老名JCTから久喜白岡JCTへの所要時間は、圏央道を利用することで約35分短縮されており、例えば鬼怒川温泉では、台風の影響で宿泊客数が前年比5%減少したが、神奈川県内からの宿泊客数が2割増加したことがわ

かった。

また、2016年度、圏央道が東関道までつながると、成田空港と関東近郊の世界遺産など訪日観光客が魅力を感じる観光地が高速道路で結ばれ、さらなるインバウンド観光や観光客による周遊の促進が期待される（図—9）。



図—9 圏央道により東名高速と東北道が結ばれることによる観光の活性化と時間短縮

#### (4) もしもの場合は3環状で渋滞回避

3環状の整備により、東名高速等の放射方向の高速道路において、災害・事故等で通行止めが発生した場合であっても、3環状を利用して迂回することで、一般道の渋滞を回避して目的地へ向かうことが可能となる。

2014年9月に東名高速で通行止めが発生した際には、通行止め時間帯での圏央道と中央道の交通量が、平常時の交通量より約5割増加していることが確認されており、もしもの場合の3環状利用が広がり始めている（図—10）。

今後、想定される首都直下地震などの震災時において、3環状は、防災拠点などを結び、救助、救援活動や物資輸送などの各種活動を支援する基盤となる。

## 4. おわりに

これまで示してきたとおり、3環状の整備は、まだ途中段階ではあるもののすでに様々なストック効果が発現しはじめている。今後、ミッシングリンクが解消されれば、その効果がさらに開花されると思われる。

その整備効果を引き続き国民や道路利用者の皆さまにわかりやすく、丁寧に説明してまいりたいと考えている。

今後も、関係機関と連携を図り、地元の方々の理解と協力を得ながら、早期完成に向けて整備を進めてまいりたい。



出典：2015年10月16日 国土交通省関東地方整備局記者発表資料より抜粋

図—10 東名高速で通行止めが発生した際の迂回事例